



「入念を預かっている」
その重さを再認識
講習会では、実際に各機材で使用されている車台を使用。このように、また運転免許試験場と異なる場所で行われる講習会。初めて試みた。その効果は参加者の引き締まった表情からうかがえる。プログラムは、まず、参加者による交通安全講話から始まり、福祉車両の扱いの意義まで午前中（11時）練習し、後述されている（文）

全種類一の実行、「一時停止」は必ず止まる。「見なかつた」ではない。「見ていなかつた」という言葉がない。クルマを運転する際の注意点が、丁寧に指摘されていた。午後は、試験場のコースを使用した実技。機材走行の後、運転技術チェックとなった。交通安全法に即して、走るのは試験のこと。それだけでは対応しきれない。自衛隊の運転士（一）の指導も受け、先導路走行中でも周囲に気を配る（等）が、交通安全のプログラムの後からアドバイスされる。参加者はあらかじめ「クルマを運転する」こと、ともすれば「運転」あたり慣れかかってくる。思い込みがちなところ。それは参加者のアンケートに如実にあらわれている。一教育、指導員のアドバイスにより、自己防衛運転の危険性を自覚した。「命を預かること」の大切さを再確認した。「ベテランドライバー」でも、以上のような意識を持つた意義がある。これから、より多くの参加者が集うように取り組む（文）。



参加者の声...
社会福祉法人 華優会
十七名で参加していた華優会の皆さんは、事務責任者の半林さんは、実技があったこと、試験場で開催されたこと、スキルアップが期待されると感謝を述べられていた。



参加者の声...
有限会社 てくぼホーム
「交通安全講習会」を受講する意義を再認識できた。また交通安全の大切さを再認識できた。また交通安全の大切さを再認識できた。また交通安全の大切さを再認識できた。

●今後の講習会予定
・2006年7月23日(日) 9月17日(日) 11月26日(日)
・会場 警視庁 鮫洲運転免許試験場
・定員 30名
・参加費 8000円(受講料、講師料、テキスト代、保険料含む)
問合せ 特定非営利活動法人福祉支援センター
福祉支援センター 福祉車両安全推進課
TEL 03(5789)3805

月刊福祉 (平成 18 年 7 月号より抜粋)

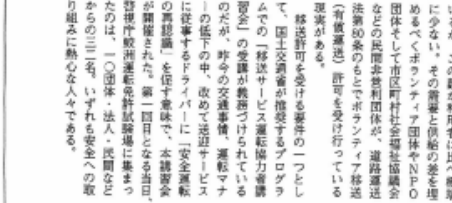


安心・安全な送迎サービスのために 福祉車両 安全運転実技講習会

平成十七年度の警察白書では、世界一安全な道路交通を目指して、一特養ホーム、昭和四五年に最悪の数字を記録した交通事故死者数が、警察をはじめ関係機関や各団体の真摯な交通安全対策への取り組みで、成果は上がり近年では年間七〇〇〇人台にまで減少してきている。しかし今更だ命が失われている事実。変わりなく、交通事故発生件数は増加し続けている。ちなみに同年の警視庁管内の交通事故発生件数は八万件以上、そのうち高齢者が関係するものは一万四〇〇〇件、約一八％となっている。



悪化する交通マナーの再認識と安全運転を心がける
平成十七年度の警察白書では、世界一安全な道路交通を目指して、一特養ホーム、昭和四五年に最悪の数字を記録した交通事故死者数が、警察をはじめ関係機関や各団体の真摯な交通安全対策への取り組みで、成果は上がり近年では年間七〇〇〇人台にまで減少してきている。しかし今更だ命が失われている事実。変わりなく、交通事故発生件数は増加し続けている。ちなみに同年の警視庁管内の交通事故発生件数は八万件以上、そのうち高齢者が関係するものは一万四〇〇〇件、約一八％となっている。



移設許可を受ける要件の「ソフト」
て、国土交通省が推進する「プロダラム」での「福祉サービス運転協力者講習会」の受講が義務づけられている。だが、昨今の交通事情、運転マナーの低下の中、改めて送迎サービスに役するドライバーに「安全運転の再認識」を促す意味で、本講習会が開催された。第一回となる講習会、警視庁鮫洲運転免許試験場に集まったのは、一〇団体・法人・民間などからの三名、いずれも安全への取り組みに熱心な人々である。

28

～「事故」を起こさない、もらわないために～

福祉車両 安全運転実技講習会

2006年7月23日(日)開催分
参加者募集中

対象/通所サービスで利用者送迎を行うドライバー
募集定員/30名
会場/警視庁鮫洲運転免許試験場
参加費/8000円

※受講料、講師料、テキスト代、保険料を含む

【主催】NPO法人 福祉支援センター
【協力】警視庁東京水上警察署、東京都社会福祉協議会、
東京水上交通安全協会
【後援】日本自動車工業会

お問い合わせ/03-5789-3805

シルバー産業新聞 (平成 18 年 6 月 10 日より抜粋)